

研滴第2号によせて

会長 岡野修一

昨年度研滴の創刊号を発刊しましたところ、会員をはじめ関係方面の皆さんがたから絶大な賛辞をいただき、ほんとうに心温まる思いをいたしました。これもひとえに関東地区機械工業教育研究会の発展のために平素から格段のご支援をいただいているおかげであると感謝する次第であります。

本年も貴重な原稿を多数いただき、研滴第2号を発行できましたことを厚く御礼申し上げます。

本年は、関東地区機械工業教育研究会が創立されてから15周年にあたりますが、研究会活動は年を経るごとに活発になり、その成果が工業教育の現場に反映し、教育の振興に多大の寄与をしていますことはご同慶の至りに存じます。文部省では、9月末に新学習指導要領を発表されるように聞いておりますが、今回の改訂は、日進月歩の技術の進歩に即応し、生徒の素質の多様性をふまえて工業教育のあり方をじゅうぶん勘案して行なわれているようであります。いつもよくいわれますが、機械科教育は工業教育の中で最も基盤になるものであります。また、実習と製図が中核をなすものであるといわれており、今回の改訂の柱はここにあります。教育内容については、内容の精選が強く打ち出されていますが、しいていいますれば、内容的には大きな変化はみられません。しかし、内容のとらえ方が従来とかなり大きな変化があるようであり、その点じゅうぶん注意する必要があります。私たちは、研究会活動を通して教育内容を検討していくとともに、今後ともよりいっそう研究しなければならないことはどうすれば学習効果を上げることができるかという指導方法の問題であると思います。教材映画・スライドの活用、O・H・P、V・T・R、テーピングマシンなど研究課題は山積しております。また情報技術をどのように導入するか、NC工作機械の導入などもこれからの大きな課題であろうかとも思います。会員の皆さんの中には、これらの諸問題のどれかと取り組んでおられることと思いますが、研究協議会やこの研滴の紙上を通じて情報交換をされることもまた研究会の目的達成の道かと考えます。

研滴第2号は、創刊号よりページ数が増して充実したものになっており、今後とも皆さんの手によつて研滴を育て上げていただきたいと存じます。

第2号発刊にあたり、原稿を寄せられた方々、またこれの編集にあられた方々、校務ご多忙の中にあつてご益力いただきましたことを改めて心から御礼申し上げます。

昭和45年初秋